

奉願口上覚

山北村住居郷士

安岡廣助

右者代々山北村二住居仕若年之頃より父子共武藝學
文心懸厚出情仕劔術之儀者若年之頃門田貫三良殿
取立其後私方二而修行方出情仕追々傳授等相済実者
身上柄宜者二御座候二付費を不厭稽古道具仕入置申候
弓術之義者加藤山三郎殿方二而皆傳等得於自宅射
場相建及老年候得共不厭老稽古人世話方仕仲間共
始若年之者共為二相成且困窮之者共へ者不断相施し
旁以先達御褒賞被仰付難有仕合奉存候其後とて茂
厚心懸修行世話方仕候二付誠二廉々深切寄特之躰難見
捨置候間此段宜御達被仰付被為下度奉願上候

山北村住居

深尾内匠殿御預郷士

安岡平八

右者若年之頃より武藝出情仕文化十四年入門仕当
年迄廿七ヶ年劔術修行方出情仕追々傳授等相済
高木流柔術此亦出情仕清水小助殿方二而皆傳等得
申候炮術之義此亦出情仕高村造酒丞殿より追々傳授
仕并弓術■■出情仕傳授等受（*凡例参照）

且平生之事行行届困窮者共へ不断相施し旁以

先達御褒賞被仰付難有仕合奉存候其後とて心懸
厚出情仕候二付難見捨置候間此段宜御達被仰付被為
下度奉願上候

山北村住居

士

下田喜三右衛門支配郷■

安岡利弥太

右者若年之頃より武藝心懸厚出情仕文化十四年
入門仕劔術出情仕追々傳授等相濟当年迄廿七ヶ年修
行方出情仕候高木流柔術此亦出情仕清水小助殿方
二而皆傳等得

并弓術■■出情仕傳授等受（*凡例参照）

且平生行届類族隣家共睦敷相交り

実貞寄特之者二御坐候間此段宜御達被仰付被為下度
奉願上候

郷土廣助次男

郷土

安岡亀吉

右者若年之頃より武藝學文心懸厚出場仕文政四年
已歳入門仕劔術修行方出情仕追々傳授等相濟当
年迄拾九ヶ年出情仕候高木流柔術此亦出情仕
清水小助殿方二而追々傳授等ヲ得且又於自宅経書
講釈會相定會日相立田村隆蔵相招キ講授為仕
諸事懇世話方仕類族隣家共睦敷相交実貞寄
特之躰難見捨置候間此段宜御達被仰付被為下度
奉願上候

右之趣宜御執成被仰付被為下度奉願上候

以上

天保十亥年

他支配組拔御足輕

十二月

忠次

手嶋早太様

凡 例

■…………… 原文で取り消しで塗りつぶされている箇所。

* 挿入訂正

原書の体裁は左のようになっている。翻刻では挿入訂正として、同一行に記載している。

并弓術出情仕傳授等受

仕且平生之事行行届、困窮者共